

Oracle9i Forms Developer and Forms Services

リリース・ノート

リリース 9.0.2

2002 年 9 月

部品番号 : J06599-01

目次

一般的な問題と回避策	4
Oracle JInitiator を使用する場合にとって重要な情報	4
Oracle 以外のデータベースに対するサポート	4
インストール済の Oracle9iAS 内に demoCAcert.txt が存在していない	4
オンライン・ヘルプ・トピック不明のエラー	5
JDAPI Javadoc の入手	5
XMLTOOLS Javadoc の入手	5
Oracle9i Forms Migration Assistant の入手	5
SSO で HTTP と HTTPS を同時に使用できない	5
構成上の問題と回避策	5
Graphics 統合の問題	6
TK_PRINTER の値を設定する必要がある	6
Form 内のグラフィック統合	6
ORARRP がサポートされていない	6
Form と Report の統合の問題	6
Report 統合の失敗時のエラー frm-41213	6
Unix で Form Builder からは Reports Builder を起動できない	6
アプリケーション配置では Sun Java 1.3 のプラグインがサポートされていない	6
Forms アプリケーションの配置	7
新規のエラー・メッセージ	7
名前付き構成セクション内に OTHERPARAMS がある場合は、デバッガを使用できない	7
UNIX プラットフォーム上での Run Form の使用	7
Oracle9i Forms での HTTPS およびシングル・サインオン (SSO) の有効化	8
ORACLE_HOME が 39 文字を超える場合の問題	8
Forms Classpath が 511 文字を超える場合の JVM のダンプ	8
移行ツールの入手	8
Forms と Report の統合がデバッグ・モードで機能しない	8
Graphics 統合がサポートされない OS の組合せ	8
Forms と Reports の統合に関する考慮事項	9
その他の要件	9
ブラウザの "URL Not Found" エラー	9
Graphics 6i を埋め込んだ Forms の実行	10
Oracle9i Forms に関する問題	10
Oracle9i Forms と Enterprise Manager に関する問題	10

ORACLE®

Oracle は登録商標です。Oracle9i はオラクル社の商標または登録商標です。その他の名称は、各所有者の商標です。

Copyright © 2002 Oracle Corporation.
All Rights Reserved.

Enterprise Manager で Forms セッションを強制終了した場合、その処理に約 1 分かかる ...	10
Enterprise Manager による formsweb.cfg からのコメント除去	10
Oracle9i Forms のトレースに関する問題	10
定義済ログ名が作成不可能	10
Oracle Trace での Oracle9i Forms に対するサポート廃止	10
パスにスペースが含まれているディレクトリにフォームを保存した場合は、 「フォームの実行」を使用できない	11
キーボード・ショートカットの変更	11
JDeveloper で作成した PJC の Forms への配置	11
完全な CLASSPATH が JDAPI で使用できない	11
Java Plug-in を使用して Netscape で Web Forms を実行すると、 セキュリティ警告メッセージが表示される	11
レイアウト・ウィザードでのアンダースコア記号の扱い	12
Oracle9i Forms の既知のバグ	12
1883 年 11 月 18 日以前の日付に対するタイム・ゾーンのサポート	12
NCHAR 列または NVARCHAR2 列内のデータがフォームによって破壊される	12
クエリー実行後に ONETIMEWHERE ブロック・プロパティを取得した場合、 Form がクラッシュする可能性がある	12
レイアウト・エディタにアイコン・ボタンが GIF/JPG イメージで 表示されるようにする必要がある	12
キーボードを使用しても「Select Java Classes」フィールドにナビゲートできない	13
Migration Assistant	13
Migration Assistant と PLL ファイル	13
「変換後にコンパイル」	13
RUN_PRODUCT ビルトインを、もう 1 つの別のフォーム・セッションの起動に使用すると、 エラーが発生する	13
実装クラス内に有効な Bean 名が含まれている場合、FRM-13008 エラーが返される	14
レイアウト・エディタの Bean 領域内に、有効な Bean が表示されない	14
XMLTOOL に関する問題	14
Form モジュールの XML 変換とその逆変換	14
XML から FMB への変換では、画像エラーが通知されない	14
PLL が見つからない場合、XML コンバータが例外を出力する	14
PL/SQL エディタに関する問題	14
「CALL」から「CALL_FORM」までのどの単語が出現した場合でも、 PL/SQL コンバータで変換されてしまう	14
コメント・アウトされた無効なビルトインがあると、 PL/SQL コンバータがそのビルトインに関する警告を出す	14
JDAPI に関する問題	15
大文字を使用しないと、JDAPI を使用する Forms オブジェクトを参照できない	15
リレーシヨンの作成による Builder のクラッシュ	15
最初にフォーカスのあるテキスト項目での IME の起動	15
National Language Support に関する問題	15
無効なメニュー項目タイプのアップグレード・メッセージ	15
URL のクエリー・パラメータとフォーム名の中でのマルチバイト文字の使用	15
環境設定ファイル内のマルチバイト文字	16
Forms Builder で英語表示される機能について	16
データ・ブロック・ウィザードで使用できない表名	16
WebFormTitle での日本語の使用	16
ドキュメントの正誤表	16
オンライン・ヘルプ・システム	16
デバッガでの PL/SQL パッケージ用グローバル変数の参照	16
デフォルト・アラート・ボタンのプロパティが必須になっていて省略できない	16

環境変数の誤植	16
Java インポート・ヘルプ内のパスの誤植	17
JDAPI ドキュメントの中に不正な Java コードが含まれている	17
JDAPI サブクラスのサンプルの中に不正なコードが含まれている	17
JavaBean ソース・コードのサンプルの誤植	17
DO_COMMIT 動作に関する記述が不明瞭	18
デバッガでの変数値の変更に使用可能なウィンドウに関する説明が不完全	18
Oracle9iAS Forms Services 利用ガイド リリース 9.0.2	18
「PL/SQL Converter」と「GUI バージョンの Migration Tool」の 「Oracle9i Forms Migration Assistant」への改名	18

このマニュアルでは、Oracle9i Forms Developer および Oracle9iAS Forms Service の更新内容を次のように要約しています。

- [一般的な問題と回避策](#)
- [構成上の問題と回避策](#)
- [Oracle9i Forms に関する問題](#)
- [Oracle9i Forms の既知のバグ](#)
- [National Language Support に関する問題](#)
- [ドキュメントの正誤表](#)

関連項目：『Oracle9i Application Server リリース・ノート』および『Oracle9i Developer Suite リリース・ノート』

上述の最新版リリース・ノートをはじめとする Oracle9i Forms の製品情報は、次のサイトからも入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>（日本語）

<http://otn.oracle.com/docs/products/forms/content.html>（英語）

一般的な問題と回避策

この項では、Oracle9i Forms Developer および Oracle9iAS Forms Service の一般的な問題を取り上げたうえで、その回避策について説明します。

- [Oracle JInitiator を使用するお客様にとって重要な情報](#)
- [Oracle 以外のデータベースに対するサポート](#)
- [インストール済の Oracle9iAS 内に demoCAcert.txt が存在していない](#)
- [オンライン・ヘルプ・トピック不明のエラー](#)
- [JDAPI Javadoc の入手](#)
- [XMLTOOLS Javadoc の入手](#)
- [Oracle9i Forms Migration Assistant の入手](#)
- [SSO で HTTP と HTTPS を同時に使用できない](#)

Oracle JInitiator を使用するお客様にとって重要な情報

機能改善のため、JInitiator は、Forms のインストールに含まれるバージョンではなく、OTN-Japan または OTN からダウンロードできる JInitiator 1.3.1.9 を使用することをお勧めします。

Oracle 以外のデータベースに対するサポート

Oracle9i Forms には、(SQL*Net を経由するかかわりに) ODBC 経由でデータベースにアクセスするための Open Client Adaptor (OCA) が付属されなくなりました。記載内容によると、Microsoft SQL Server や IBM DB2 などのデータベース内のデータにアクセスする手段である OCA の代用として使用されているのが、Oracle Transparent Gateways です。ただし、Forms 9i の初期リリースでは、透過的ゲートウェイを介してのアクセスに対するサポートは可能となっていない。この原因は、ゲートウェイでは行レベル・ロッキングを有効にするための「Select For Update」がサポートされていないためです。このサポートの欠如は、将来のリリースの Oracle Forms で対応される予定です。

インストール済の Oracle9iAS 内に demoCAcert.txt が存在していない

『Oracle9iAS Forms Services 利用ガイド リリース 9.0.2』の第3章には、次のような旨の引用があります。

「Oracle9iAS でテスト目的に提供されているテスト証明書を使用する場合には、JInitiator certdb.txt ファイルを編集して、デモ・ルートの証明書の内容を追加してください。この証明書ファイルの保存場所は、<9iAS oracle_home/Apache/Apache/conf/ssl.crt/demoCAcert.txt です」

demoCAcert.txt ファイルはもう存在していません。Oracle9iAS Web Cache を有効にして実行している場合（つまり通常のケースでは）、インストール済のファイル <9iAS oracle_home>/webcache/wallets/default/b60certificate.txt を使用する必要があります。Web Cache を使用せずに実行（つまり、Oracle HTTP Server に直接アクセス）する場合には、次の手順でデモ・ルートの証明書ファイルを作成する必要があります。

1. Oracle Wallet Manager を起動します。
2. \$ORACLE_HOME/Apache/Apache/conf/ssl.wlt/default/ewallet.p12 を開きます。
3. 「Operations」メニューの下のメニュー・オプション「Export Wallet」を選択します。
4. 「demoCertCA.txt」という名前のテキスト・ファイルとして保存します。

必要な証明書ファイルを用意したら、『Oracle9iAS Forms Services 利用ガイド』の次の手順に従って、証明書が使用できるように JInitiator を構成（JInitiator の certdb.txt ファイルに付加）します。

オンライン・ヘルプ・トピック不明のエラー

オンライン・ヘルプで、[F1] を押して無効なビルトイン、プロパティ、トリガーおよび定数にリンクしたときに、「FRM-10063: ヘルプ・ファイルが見つからないか、ヘルプ・ファイルが破損しています」という旨のエラー・メッセージが出力されます。このエラーが発生する原因は、無効な情報がヘルプ・システムから削除されているためです。移行およびに廃止内容については、『Oracle9i Forms Developer and Forms Services Forms アプリケーションの Forms6i からの移行』を参照してください。

JDAPI Javadoc の入手

最新の JDAPI Javadoc（英語版）は、次のサイトからダウンロードできます。

<http://otn.oracle.com/docs/products/forms/content.html>.

XMLTOOLS Javadoc の入手

最新の XMLTOOLS Javadoc（英語版）は、次のサイトからダウンロードできます。

<http://otn.oracle.com/docs/products/forms/content.html>.

Oracle9i Forms Migration Assistant の入手

最新の Oracle9i Forms Migration Assistant およびドキュメント（英語）は、次のサイトからダウンロードできます。

<http://otn.oracle.com/software/products/forms/content.html>

日本語の Oracle9i Forms Migration Assistant に関する情報は、OTN-Japan

<http://otn.oracle.co.jp/>

より提供される予定です。

SSO で HTTP と HTTPS を同時に使用できない

Forms で SSO（Single-Sign-On）を使用する場合、中間層サーバーに mod_osso パートナを登録する必要があります。フォームを http モードで実行する場合、必要な http 情報でそれを登録する必要があります。フォームを https モードで実行する場合は、必要な https 情報でそれを登録する必要があります。ただし、mod_osso に登録できるのはどちらか一方のみです。そのため、SSO を使用してフォームを http モードと https モードで同時に実行することはできません。

構成上の問題と回避策

この項では、Oracle9i Forms Developer および Oracle9iAS Forms Service の構成上の問題を取り上げたうえで、その回避策について説明します。

- [Graphics 統合の問題](#)
- [ORARRP がサポートされていない](#)
- [Form と Report の統合の問題](#)
- [アプリケーション配置では Sun Java 1.3 のプラグインがサポートされていない](#)
- [Forms アプリケーションの配置](#)

- 新規のエラー・メッセージ
- 名前付き構成セクション内に OTHERPARAMS がある場合は、デバッガを使用できない
- UNIX プラットフォーム上での Run Form の使用
- Oracle9i Forms での HTTPS およびシングル・サインオン (SSO) の有効化
- ORACLE_HOME が 39 文字を超える場合の問題
- Forms Classpath が 511 文字を超える場合の JVM のダンプ
- 移行ツールの入手
- Forms と Report の統合がデバッグ・モードで機能しない
- Graphics 統合がサポートされない OS の組合せ
- Forms と Reports の統合に関する考慮事項
- ブラウザの "URL Not Found" エラー
- Graphics 6i を埋め込んだ Forms の実行

Graphics 統合の問題

TK_PRINTER の値を設定する必要がある

Graphics (たとえばチャートなど) は、Form 実行時には表示されません。回避策として、TK_PRINTER が実際の \$PRINTER の値に設定されるように g90runm.sh を修正してください。

Form 内のグラフィック統合

default.env 内の PATH 環境変数を、Oracle 9iDS の Oracle ホームの次のディレクトリに設定します。

```
%ORACLE_HOME%/bin
```

ORARRP がサポートされていない

ORARRP はサポート対象外です。『Oracle9i Forms Developer and Forms Services Forms アプリケーションの Forms6i からの移行』に掲載されている converter.properties のオプションのうち、次のものはサポート対象外です。

- default.use_orarrp
- default.orarrp_virtual_directory
- default.orarrp_physical_directory

上述の各オプションは無視してもかまいません。

Form と Report の統合の問題

Report 統合の失敗時のエラー frm-41213

このエラーを受け取った場合は回避策として、default.env ファイルに次のコードを追加してください。

```
REPORTS_CLASSPATH=%FORMS_ORACLE_HOME%/jlib/zrclient.jar;%FORMS_ORACLE_HOME%/reports/jlib/rwrun.jar
```

Unix で Form Builder からは Reports Builder を起動できない

回避策として、ファイル f90desm.sh を修正して、reports.sh の呼出し元の行のコメントを解除します。

アプリケーション配置では Sun Java 1.3 のプラグインがサポートされていない

Solaris プラットホーム上では、実稼働環境での配置がサポートされていない VM パラメータが formsweb.cfg ファイル内に含まれます。Sun Java 1.3 のプラグインは、ランタイム配布用のクライアント・プラットホームとしてはサポートされていません。formsweb.cfg ファイル内にあるこのプラグ用のエントリは、UNIX プラットホーム上の Oracle9iDS Forms Developer で使用する場合にのみ、フォームの実行時またはデバッグ時に使用されます。

Forms アプリケーションの配置

Oracle9iAS 上に Oracle9i Forms アプリケーションを配置するには、forms90.conf ファイルの構成が必要になります。Oracle9iAS Forms Services では、Forms Servlet および Forms Listener Servlet に対してのみ、mod_OC4J を介して OC4J が使用されます。クライアント Java アーカイブや JInitiator のダウンロードをはじめとする他のファイル・ハンドリングはすべて、直接 Oracle HTTP Server で実行され、製品のインストール中に自動的に forms90.conf ファイルが構成されます。forms90.conf ファイルについては、『Oracle9iAS Forms Services 利用ガイド』を参照してください。

Oracle9iDS 上には Apache HTTP Listener がないため、設計時の配置およびクライアント・アーカイブ・ファイルのダウンロードの目的に、OC4J が直接 Forms によって使用されます。

新規のエラー・メッセージ

FRM-93000: Servlet internal error.

Cause: A servlet error occurred, or runtime did not start properly.

Action: See the error messages in the servlet (OC4J) log file for clarification.

このエラーが出力された場合、サーブレットでエラーが発生しており、その詳細を記録した OC4J ログ・ファイルが生成されます。

OC4J ログ・ファイルは、次の場所にあります。

```
<ORACLE_HOME>/j2ee/OC4J_BI_Forms/application-deployments/forms90app
```

このログ・ファイルはアプリケーション・ログと呼ばれます。Oracle9iAS の構成内容にもよりますが、一般的にはたとえば OC4J_BI_Forms_default_island_1 のようなサブディレクトリ内に格納されます。

名前付き構成セクション内に OTHERPARAMS がある場合は、デバッガを使用できない

formsweb.cfg ファイル内の名前付き構成セクションに OTHERPARAMS が使用された場合は、デフォルトの OTHERPARAMS パラメータ (DEBUG パラメータを含む) が上書きされます。

たとえば、次のような名前付き構成セクションがあるとします。

```
[MyApp]
otherparams=usesdi=yes
```

その場合、次のようなデフォルトの OTHERPARAMS が上書きされます。

```
otherparams=debug=%debug% host=%host% port=%port%
```

その結果、MyApp 構成でデバッガを使用してもそのデバッガは実行されません。MyApp 構成が使用されるように Form 設定の Application Server URL を修正した場合にも、デバッガにこのような動作が起きます。

回避策は、DEBUG、HOST および PORT を別々のパラメータとして指定することです。該当する base.html ファイルおよび別々のパラメータを修正します。これらのパラメータは、必ず formsweb.cfg のデフォルト・セクションに追加するようにします。その後、これらのパラメータを OTHERPARAMS から削除してください。

UNIX プラットフォーム上での Run Form の使用

UNIX プラットフォーム上で Run Form を使用するには、次のようにします。

1. JDK 1.3.1_02 プラグインをインストールします。
2. NPX_PLUGIN_PATH を
Solaris: \$ORACLE_HOME/jdk/jre/plugin/sparc/ns4
HP-UX: \$ORACLE_HOME/jdk/jre/plugin/PA_RISC/ns4
(プラグイン・インストール場所) に設定し、Netscape 用に Java プラグインを有効にします。

3. Form Builder で、「Edit」→「Preferences」→「Run Time」の順に選択します。

4. 「Web Browser Location」テキスト・フィールドに、ブラウザへの絶対パスを入力します。

注意: Web Browser をシンボリック・リンクとしては使用しないでください。その用途に使用した場合は Run Form がハングしてしまいます。

5. 「OK」をクリックして設定を保存し、ダイアログを非表示にします。

Oracle9i Forms での HTTPS およびシングル・サインオン (SSO) の有効化

Oracle9i Forms で HTTPS およびシングル・サインオン (SSO) を有効にするには、次のようにします。

1. 中間層サーバー上で次のコマンドを実行して、HTTPS 情報を登録します。

```
$ORACLE_HOME/jdk/bin/java -jar $ORACLE_HOME/sso/lib/ossoreg.jar -oracle_home_path %MIDTIER_
ORACLE_HOME% -host %<INFRASTRUCTURE_MACHINE_NAME>% -port 1521 -sid iasdb -site_name
%<INFRASTRUCTURE_MACHINE_NAME>%:1521 -success_url https://midtierserver.us.oracle.com:4443/osso_
login_success-logout_url https://midtierserver.us.oracle.com:4443/osso_logout_success-cancel_
url https://midtierserver.us.oracle.com:4443/-home_url
https://midtierserver.us.oracle.com:4443/-config_mod_osso TRUE -u root -sso_server_version v1.2
```

- **注意:** Oracle9iAS では、ポート 4443 がデフォルト・ポートです。

2. 証明書ファイル \$ORACLE_HOME/webcache/wallets/default/b64certificate.txt をインポートしま

す。
JInitiator を使用してフォームを実行する場合は、b64certificate.txt ファイルを certdb.txt に追加します。
Internet Explorer で Form を直接実行する場合は、このファイルを Internet Explorer にインポートして

ORACLE_HOME が 39 文字を超える場合の問題

ORACLE_HOME の名前が長くなると (ORACLE_HOME 全体のディレクトリ名が 40 文字以上になると)、Forms Builder の実行に問題が発生します。コード・エディタを起動してトリガーまたはプログラム・ユニットを変更または作成しようとする、ヘルプが表示されず、デバッグが機能せず、Builder がクラッシュします。この問題を回避するには、ORACLE_HOME の名前を 40 文字未満にします。

また UNIX では、ファイル \$ORACLE_HOME/bin/f90desm.sh を開いて、FORMS90_BUILDER_ CLASSPATH が設定されている行の後に、次の 2 行を追加します。

```
CLASSPATH=$FORMS90_BUILDER_CLASSPATH
```

```
export CLASSPATH
```

Forms Classpath が 511 文字を超える場合の JVM のダンプ

FORMS90_BUILDER_CLASSPATH が 511 文字を超える場合、Forms Developer でトリガーまたはプログラム・ユニットを作成しようとする、JVM のダンプが発生します。対処方法としては、f90desm.sh スクリプトまたはコマンド・ラインに、CLASSPATH=\$FORMS90_BUILDER_CLASSPATH を設定します。

移行ツールの入手

現在 Forms Developer には、Forms6i アプリケーションを Forms9i に移行するためのコマンド・ライン移行ツールが提供されています。移行ウィザードと付属のドキュメントは、今後 OTN-Japan で提供される予定です。

Forms と Report の統合がデバッグ・モードで機能しない

デバッグ・モードで (「デバッグ」メニューから「Debug Module」を使用するか、「フォーム・デバッグの実行」ボタンをクリックして) Forms Developer からレポートを統合し、フォームを実行すると、次のエラーが表示されます。

FRM-41213:Reports サーバー Rep9isrv に接続できません。

デバッグ・モードでフォームを実行しなければ、レポートの統合は問題なく機能します。

Graphics 統合がサポートされない OS の組合せ

Forms 9i と Graphics 6i との統合は、次の組合せの場合は機能しません。

Oracle9i Application Server リリース 2: Solaris 2.6 システムヘインストール

Oracle9i Application Server R1.0.2: Solaris8(2.8) システムヘインストール

Forms と Reports の統合に関する考慮事項

Oracle9i Forms Services のデフォルトの構成は、SSO モードで実行されません。Oracle9i Reports Services のデフォルトの構成は、SSO モードで実行されます。

Forms Run_Report_Object ビルトインを使用して統合された Oracle Reports をコールする Forms アプリケーションは、Reports Services と要求された Reports モジュールが Oracle Portal に登録されていない限り、Forms が非 SSO モードで実行され、Reports が SSO モードで実行されても、問題は発生しません。

その他の要件

- プロパティの ReportServer は、Forms モジュールのすべてのレポート・オブジェクトに明示的に設定しておく必要があります。
- デフォルト以外の Reports Server を使用する場合、そのサーバーは次のようにコマンドラインから起動する必要があります。

```
rwserver server=<Reports サーバー名 >
```
- システム変数の REPORTS_PATH は、Reports の場所が参照されるように、ファイル ORACLE_HOME/bin/reports.sh で変更する必要があります。
- Reports サーバーを初めて起動すると、ORACLE_HOME/server/conf/<サーバー名>.conf という構成ファイルが作成されます。
- Reports サーバーのデフォルトのステータスはセキュアです。Reports サーバーのステータスを非セキュアに変更するには、<security> タグをコメント・アウトし、<job> タグから securityId を削除して、ORACLE_HOME/server/conf/<Reports サーバー名>.conf を変更します。
- これらの変更を行った後、Reports サーバーを再起動する必要があります。
- Forms Services が SSO モードで動作するように設定されている場合、Reports の要求は、SSO ユーザー・ログインに基づいて与えられる authid とともに送信されます。
- 保護付きの Reports と Reports Servers は、Portal に登録できます。

表 1 は、Forms と Reports の可能な組合せと予測される結果の一覧です。

表 1 Forms が SSO モードまたは非 SSO モードで稼働する場合の Forms と Reports の統合の結果

	登録されたセキュア Reports Server		非セキュア Reports Server
	登録されたレポートのみ実行	任意のレポートを実行	
パブリック・アクセス付きレポート	レポート生成可能	レポート生成可能	レポート生成可能
特定のユーザー・アクセス付きレポート	レポート生成可能	レポート生成可能	レポート生成可能
特定のユーザー・アクセスなしのレポート	レポート生成不可	レポート生成不可	レポート生成可能
登録されていないレポート	レポート生成不可	レポート生成可能	レポート生成可能

ブラウザの "URL Not Found" エラー

ブラウザに「URL Not Found; The requested URL /forms90/f90servlet was not found on this server」に類するエラー・メッセージが表示された場合は、oracle_apache.conf ファイルに次のエントリを追加します。

```
include "<ORACLE_HOME>/forms90/server/forms90.conf"
```

<ORACLE_HOME> は、Oracle9iDS や Oracle9iAS のインストールにおける Oracle ホームです。

Graphics 6i を埋め込んだ Forms の実行

UNIX 環境で Graphics 6i のチャート項目を埋め込んだ Forms を実行するためには、以下に挙げる設定を正しく行う必要があります。

1. \$ORACLE_HOME/guicommon9/tk90/admin/uiprint.txt 内で、正常なプリンタ・エントリが記述されていること。
2. Oracle9i Forms Services の起動時および g90runm.sh 等のシェルスクリプト内で、以下の環境変数が設定されていること。

```
PRINTER=<1 で設定したプリンタ名>  
TK_PRINTER=<1 で設定したプリンタ名>  
TK_PRINT_STATUS="echo %n is valid"
```

個々のファイル、環境変数の詳細な設定方法についてはマニュアルおよびオンライン・ヘルプを参照してください。

Oracle9i Forms に関する問題

次の項では、Oracle9i Forms コンポーネントに関する既知の問題を取り上げます。

- [Oracle9i Forms と Enterprise Manager に関する問題](#)
- [Oracle9i Forms のトレースに関する問題](#)
- [パスにスペースが含まれているディレクトリにフォームを保存した場合は、「フォームの実行」を使用できない](#)
- [キーボード・ショートカットの変更](#)
- [JDeveloper で作成した PJC の Forms への配置](#)
- [完全な CLASSPATH が JDAPI で使用できない](#)
- [Java Plug-in を使用して Netscape で Web Forms を実行すると、セキュリティ警告メッセージが表示される](#)
- [レイアウト・ウィザードでのアンダースコア記号の扱い](#)

Oracle9i Forms と Enterprise Manager に関する問題

Enterprise Manager で Forms セッションを強制終了した場合、その処理に約 1 分かかる

Forms Server では、必要なクリーンアップ作業（メモリー割当てのクリーンアップなど）が実行されているため、Form プロセスをコマンドラインで強制終了した場合でも、結果は同じです。

Enterprise Manager による formsweb.cfg からコメント除去

Enterprise Manager を使用して formsweb.cfg ファイルを修正し、変更内容を送ると、formsweb.cfg ファイルの中にあったコメントがすべて削除されます。この動作は、変更内容を送った後に起こります。表示のみであれば削除されません。

Oracle9i Forms のトレースに関する問題

定義済ログ名が作成不可能

Forms Trace ファイルのログ名は、URL では指定できなくなりました。この動作により、無効な場所にファイルが誤って書き込まれてしまうのが回避されています。URL に log=<filename> を指定した場合、その URL は無視されます。そのファイルには forms_<pid>.trc という名前が付きます。ここで、<pid> は、サーバー上のプロセス ID です。ファイルは環境変数 FORMS90_TRACE_PATH で指定されたディレクトリの中に作成されます。この変数はサーバー上で指定されます。

Oracle Trace での Oracle9i Forms に対するサポート廃止

record=otrace と指定した場合、Form は起動に失敗します。Oracle9i Forms に設定される次のパッチでは、この問題が解決される予定です。

パスにスペースが含まれているディレクトリにフォームを保存した場合は、「フォームの実行」を使用できない

サンプルのフォームを作成してパスにスペースが含まれているディレクトリ（たとえば C:\Program Files\Oracle\test.fmb）に保存し、「Run Form」アイコンをクリックすると、エラー・ダイアログが表示されます。

FRM-40010 : Cannot read form C:\Program.

このエラー・メッセージは、URL にスペースが含まれている場合に表示されます。

キーボード・ショートカットの変更

次のキーボード・ショートカットは変更されました。

表 2 キーボード・ショートカット

アクション、ファンクション またはツール	以前のリリースの ショートカット	Oracle9i Forms の ショートカット
PL/SQL エディタ	[F7]	[F11]
デバッグ・モジュール	[Shift]+[Ctrl]+[F9]	[Shift]+[F9]
ステップ・オーバー	[F12]	[F8]
ステップ・イン	[F11]	[F7]
ステップ・アウト	[Shift]+[Ctrl]+[F11]	[Shift]+[F7]
カーソル位置まで実行	[F4]	[Shift]+[F4]

JDeveloper で作成した PJC の Forms への配置

JDeveloper PJC Wizard を使用してトランспортаブル Java コンポーネント（PJC）を作成する場合、使用する PJC の実行時に Java 依存クラスを利用できるようにする必要があります。これらの依存クラスは、oracle.jdeveloper.pjc.BeanWrapper と oracle.jdeveloper.pjc.TypeConverter です。

これらのクラスを最も簡単に利用できるようにする方法は、jdev-rt.jar ファイルを Custom PJC Jar ファイルとともに、アプリケーションの Archive タグに含めます。ただし、ダウンロードのサイズを抑えるために、JDeveloper の「JAR 配布プロファイル」設定を使用して、明示的に 2 つの必要なクラスを Custom PJC jar ファイルに含めることができます。

クラスを含める手順は、次のとおりです。

1. 配置ファイルを作成または編集して、単純な Jar ファイルを作成します。
2. 「依存性アナライザ」設定で、「JDeveloper Runtime」ノードを選択し、次に「依存性アナライザのクラスパスにこれらを追加」ラジオ・ボタンを選択します。

これで、PJC で必要な場合には、生成された jar ファイルに BeanWrapper クラスと TypeConverter クラスが含まれます。

完全な CLASSPATH が JDAPI で使用できない

JDAPI を実行するには、次のように CLASSPATH で f90jdapi.jar を設定する必要があります。

CLASSPATH =<ORACLE_HOME>\forms90\java\F90jdapi.jar;

Java Plug-in を使用して Netscape で Web Forms を実行すると、セキュリティ警告メッセージが表示される

JInitiator を使用して Web Forms を実行すると、証明書はすでにロードされており、アプレットはその署名により認証されます。

しかし、UNIX プラットフォームでネイティブ・ブラウザを使用する場合など、証明書は自動的にロードされていません。

この警告が表示されないようにするには、ブラウザ側で「Grant」「Grant Always」を選択する必要があります。

レイアウト・ウィザードでのアンダースコア記号の扱い

レイアウト・ウィザードで画面レイアウトを自動生成するときに、_（アンダースコア）を使用している列名などに対応するラベルにおいて、_ 記号がスペースに変換されます。

Oracle9i Forms の既知のバグ

次の項では、Oracle9i Forms の既知のバグを取り上げます。推奨される回避策がある場合は、それについても説明します。

- 1883 年 11 月 18 日以前の日付に対するタイム・ゾーンのサポート
- NCHAR 列または NVARCHAR2 列内のデータがフォームによって破壊される
- クエリー実行後に ONETIMEWHERE ブロック・プロパティを取得した場合、Form がクラッシュする可能性がある
- レイアウト・エディタにアイコン・ボタンが GIF/JPG イメージで表示されるようにする必要がある
- キーボードを使用しても「Select Java Classes」フィールドにナビゲートできない
- Migration Assistant
- RUN_PRODUCT ビルトインを、もう 1 つの別のフォーム・セッションの起動に使用すると、エラーが発生する
- 実装クラス内に有効な Bean 名が含まれている場合、FRM-13008 エラーが返される
- XMLTOOL に関する問題
- PL/SQL エディタに関する問題
- JDAPI に関する問題

1883 年 11 月 18 日以前の日付に対するタイム・ゾーンのサポート

1883 年 11 月 18 日以前の日付については、異なるタイム・ゾーン（たとえば US/ 東部から GMT）間の日付変換の際に既知の問題が生じています。こうした状況では、不正な結果が返される場合があります。この問題は、今後 Oracle9i Forms のパッチで対応される予定です。

NCHAR 列または NVARCHAR2 列内のデータがフォームによって破壊される

NCHAR 列または NVARCHAR2 列内のデータが不正になる可能性があります。非ユニコード NLS_CHARACTERSET を持つデータベースに対して Form を実行しているときは、Form 内の CHAR 項目からデータベースの NCHAR 列または NVARCHAR2 列に対して挿入または更新を実行した場合、データが破壊される可能性があります。Form をホスティングするサーバーで NLS_LANG 用に UTF8 文字セットを指定した場合でも、その可能性があります。

NCHAR 列または NVARCHAR2 列からクエリーを実行しても、同様にデータが破壊されるおそれがあります。

クエリー実行後に ONETIMEWHERE ブロック・プロパティを取得した場合、Form がクラッシュする可能性がある

レコードに対してクエリーを実行してデータ・ブロック内に格納した後、ONETIMEWHERE プロパティをデータ・ブロックに設定した場合は、その ONETIMEWHERE プロパティの取得中に Form がクラッシュします。

回避策は、ONETIMEWHERE プロパティをブロック上に設定してクエリーを実行した後に ONETIMEWHERE プロパティを取得しないことです。

レイアウト・エディタにアイコン・ボタンが GIF/JPG イメージで表示されるようにする必要がある

Web 環境内のアイコンは、.GIF または .JPG ファイルのどちらかですが、Forms Builder のレイアウト・エディタでは、アイコンの表示にまだ ICO ファイルが使用されています。これらのアイコンは、設計時のみ使用されます。実行時には、GIF ファイルおよび JPG ファイルが使用されます。将来のバージョンの Oracle9i Forms では、設計時に Form Builder の GIF ファイルおよび JPG ファイルがサポートされる予定です。

キーボードを使用しても「Select Java Classes」フィールドにナビゲートできない

「Import Java Classes」ダイアログでは「Select Java Classes」フィールドへのナビゲートができません。

Migration Assistant

DATA_PARAMETER は、Run_Product で Reports の呼出しに使用されますが、Run_Report_Object を介した場合は Reports に渡せません。Migration Assistant は、Reports 用の RUN_PRODUCT() とともに使用すると、警告を出して動作しなくなります。

Migration Assistant と PLL ファイル

PLL にキーワードとして「language」または「userenv('LANG')」のどちらかが含まれている場合は、PLL ファイルの移行が失敗します。回避策として、Migration Assistant で PLL の内部にこれらの単語のうちどちらかの出現が検出された場合はエラー・メッセージを出力して移行処理を中断するように、Migration Assistant が修正されました。このエラー・メッセージはキーワードごとにそれぞれ異なりますが、たとえば次のように表示されます。

```
ERROR: <OBJECT_NAME>: Invalid PL/SQL variable name "language" found. This variable should be renamed.
```

```
ERROR: <OBJECT_NAME>: Invalid PL/SQL construct "userenv('LANG')" found.  
ora_nls.get_lang_str(ora_nls.language_abbrev) should be used instead.
```

```
ERROR: Stop word(s) found. Rolling back changes and aborting migration.
```

コメント内に停止ワードが出現すると、移行が中断される原因になります。PLL の移行が中断されないようにするには、search_replace.properties ファイル内の userenv 行および言語カテゴリ行をコメント・アウトしてください。

「変換後にコンパイル」

「変換後にコンパイル」(default.generatoruntime) は依然として有効であり、true または false のプロパティとなっています。このプロパティが「true」に設定されている場合、変換後にモジュールがコンパイルされます（たとえば .fmx ファイル、.mmx ファイル、.plx ファイルなどが生成されます）。PLL ファイルの場合、default.generatoruntime プロパティには関係なく、常に PLX ファイルが生成されます。この動作は、適切ではないとみなされ、バグ 2175830 申請が出されました。

回避策は、「Edit」→「Inherit」メニューで確認することです。対象のプロパティにグレーのドットが付いていれば無効ですが、そうでなければ有効です。対象のプロパティが使用可能な場合は、「サブクラス情報」プロパティの表示、プロパティ・クラスへのナビゲーション、プロパティが継承済かどうかの確認および値の比較ができます。

かわりに .fmb ファイルを XML に変換して、その XML のプロパティを表示することもできます。XML に表示されるのは上書きされたプロパティのみです。

RUN_PRODUCT ビルトインを、もう 1 つの別のフォーム・セッションの起動に使用すると、エラーが発生する

RUN_PRODUCT ビルトインから、もう 1 つの別の Web 配置フォーム・アプリケーションを起動した場合、エラーが発生する可能性があります。

```
Connection from a new browser window not supported
```

また、新規に作成したフォームを終了させるときに、元のフォームのセッションがフリーズしてしまう可能性もあります。回避策として、新規のセッションでは、run_product を「open_form」PL/SQL ビルトインで代用して、別の（または同じ）Form インスタンスを実行してください。これは、1 つのブラウザ・ウィンドウ内で複数の Forms セッションを実行する場合に推奨される方法です。

実装クラス内に有効な Bean 名が含まれている場合、FRM-13008 エラーが返される

実装クラス・プロパティ内に有効な Bean 名が割り当てられているときに、Forms は次のようなエラーを返す場合があります。

```
FRM-13008: cannot find javabean with name 'mypackage.PJCBeanWrapper'.
```

この場合依存クラス・ファイルをすべて、Forms builder から参照できるように CLASS_PATH を設定してください。JDeveloper PJC Wizard を使用して Bean を作成した場合は、回避策として jdev-rt.jar、f90all.jar および Bean クラスが含まれている jar を FORMS90_BUILDER_CLASSPATH に追加しておくようにします。

レイアウト・エディタの Bean 領域内に、有効な Bean が表示されない

Solaris 上で、有効な Bean 名を実装クラス・プロパティに設定した後は、レイアウト・エディタには新規のオブジェクトが表示されません。Solaris 版のレイアウト・エディタは、Windows 版のものとは異なり、ユーザーに対してフィードバックが与えられません。

フィードバックが与えられないため、classpath の設定を誤ったり実装クラス・プロパティに無効な Bean 名を設定したりしてしまうと、Form モジュールを実行して初めてエラーが表示されます。

XMLTOOL に関する問題

Form モジュールの XML 変換とその逆変換

Oracle9i Forms モジュールを XML 形式に変換した後、元の Forms モジュールに戻すと、キャンバスの表示が不正になる可能性があります。これは、変換時にカスタム・カラー・パレットが保持されないためです。

XML から FMB への変換では、画像エラーが通知されない

IMAGE タイプのグラフィック・オブジェクトを含んだ Oracle9i Form に対して XML から FMB への変換を実行しているときに画像ファイルが見つからない場合でも変換ユーティリティは警告を出しませんが、この Form を Forms Builder にローディングしてそのオブジェクトが含まれているキャンバスを開くと、Form Builder はクラッシュします。

PLL が見つからない場合、XML コンバータが例外を出力する

Oracle9i Form 上で XML コンバータを添付 PLL ファイルと一緒に使用している場合、FORMS90_PATH 内に PLL ファイルが存在しないと、XML コンバータは例外を送出します。ユーザーは、問題を引き起こす PLL ファイルを表す明白なメッセージのかわりに、あいまいなエラーを受け取ることになります。

```
Processing XML module vec0005_fmb.xml
@ ERROR - an exception has been encountered:
@ oracle.forms.jdapi.JdapiException: _jni_attach_lib failed
```

ただし、XML コンバータはライブラリがなくても処理を続行します。

PL/SQL エディタに関する問題

「CALL」から「CALL_FORM」までのどの単語が出現した場合でも、PL/SQL コンバータで変換されてしまう

この動作は、単語「CALL」が他のどこかの場所（たとえばコメントなど）で使用されている場合にも起こります。

コメント・アウトされた無効なビルトインがあると、PL/SQL コンバータがそのビルトインに関する警告を出す

コメント・アウトされた無効なビルトインがあると、PL/SQL コンバータがそのビルトインに関する警告を表示します。

JDAPI に関する問題

大文字を使用しないと、JDAPI を使用する Forms オブジェクトを参照できない

Oracle9i Form オブジェクト用に Forms が内部的に使用するのは大文字です。Java は大文字と小文字を区別するため、JDAPI を使用している Forms オブジェクトを参照する際には、大文字を使用してください。

リレーションの作成による Builder のクラッシュ

プロパティ・インスペクタで、制御ブロックにプロパティ「問合せデータ・ソースの名前」を設定しないと、「新規リレーション」ウィザードを使用してリレーションを作成するときに、Forms Developer がクラッシュします。

最初にフォーカスのあるテキスト項目での IME の起動

Forms が起動し、最初にフォーカスがある項目がテキスト項目であった場合、そのテキスト項目からフォーカスが移動するまではキーボード・ショートカットを使用した IME の起動ができません。次の項目に移動したときや、その項目から最初の項目にフォーカスを戻したときでは IME は問題なく起動します。また、最初の項目にフォーカスを置いたままの状態でも IME のパレットなどを使用する IME の起動には問題ありません。

National Language Support に関する問題

この項では、National Language Support に関する既知の問題を取り上げます。

- [無効なメニュー項目タイプのアップグレード・メッセージ](#)
- [URL のクエリー・パラメータとフォーム名の中でのマルチバイト文字の使用](#)
- [環境設定ファイル内のマルチバイト文字](#)
- [Forms Builder で英語表示される機能について](#)
- [データ・ブロック・ウィザードで使用できない表名](#)
- [WebFormTitle での日本語の使用](#)

無効なメニュー項目タイプのアップグレード・メッセージ

この項では次に列挙したメッセージは、無効なメニュー項目タイプのアップグレードに関するものであり、英語版以外のメッセージ・ファイルには含まれていません。

メッセージ・ファイルへは、次のメッセージが追加されました。

```
2500,0, "PLUS-type menu items are not supported in this version of Forms.¥n"
2501,0, "FORM-type menu items are not supported in this version of Forms.¥n"
2502,0, "MACRO-type menu items are not supported in this version of Forms.¥n"
2503,0, "This menu item has been converted to a PL/SQL-type menu item.¥nThe old command text
is shown within comments below.¥n"
2504,0, "Consider using the HOST built-in with the original text."
2505,0, "Consider using the CALL FORM built-in with the original text."
2506,0, "Consider using the MACRO built-in with the original text."
```

URL のクエリー・パラメータとフォーム名の中でのマルチバイト文字の使用

URL のクエリー・パラメータ (Forms Servlet の呼出しに使用される) の中のマルチバイト文字または双方向文字に対して、適切な処理が行われない可能性があります。たとえば、次のような URL を使用して、マルチバイト文字を含んだ (fmx) ファイル名の付いたフォームを実行するとします。

```
http://myserver/forms90/f90servlet?form=abcXX
```

上の URL を使用した場合 (XX はマルチバイト文字または双方向文字を表す)、フォーム・モジュールが見つからないという意味のエラーが表示されて失敗する可能性があります。この例と同様に、formsweb.cfg ファイル内にマルチバイト・フォーム名を使用しても失敗する可能性もあります。回避策は、Form の fmx ファイルをマルチバイト文字が含まれていない名前に変更することです。この問題は、将来のリリースで対応される予定です。

環境設定ファイル内のマルチバイト文字

環境設定ファイル（通称、default.env）内のマルチバイト文字または双方向文字が、正しく読み取れない可能性があります。たとえば、そのような文字が FORMS90_PATH 変数に含まれている場合（マルチバイト文字を含んだ名前の付いたディレクトリが、フォームへのパスに含まれているケース）、フォームが見つからない可能性があります。回避策は、シングルのバイト文字のみを含んだ名前の付いたディレクトリの下に、フォーム・モジュールを保存することです。

Forms Builder で英語表示される機能について

下記の機能は、一部または全部が英語表示されます。

機能についての詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。

- 「Import Java Classes (Java クラスをインポート)」 ダイアログ
- 「Syntax Palette (構文パレット)」 ダイアログ
- 「New Program Unit (新規プログラム・ユニット)」 ダイアログ
- 「Find and Replace in Program Units (PL/SQL の検索と置換)」 ダイアログ
- PL/SQL エディタ内のポップアップ・メニュー

データ・ブロック・ウィザードで使用できない表名

データ・ブロック・ウィザードを使用してデータ・ブロックを作成するときは、¥（全角の円記号）を使用した表を指定することができません。

WebFormTitle での日本語の使用

Form アプレット内でウィンドウのタイトルを指定するアプレット起動タグのパラメータ、WebFormTitle の値として、日本語文字列を指定しても実行時に正しく表示されません。アルファベットによる英語表記を使用してください。

ドキュメントの正誤表

この項では、Oracle9i Forms ドキュメンテーション・セットに関する既知の問題を取り上げます。

- [オンライン・ヘルプ・システム](#)
- [Oracle9iAS Forms Services 利用ガイド リリース 9.0.2](#)
- 「PL/SQL Converter」と「GUI バージョンの Migration Tool」の「Oracle9i Forms Migration Assistant」への改名

オンライン・ヘルプ・システム

デバッガでの PL/SQL パッケージ用グローバル変数の参照

オンライン・ヘルプ・トピックの「About Debugging」では、箇条書きの 6 番目に、インストール済の PL/SQL パッケージ用グローバル変数を参照できる旨が言及されていますが、これは誤記です。これらの変数は、デバッガでは表示できません。

デフォルト・アラート・ボタンのプロパティが必須になっていて省略できない

アラート・プロパティ用のオンライン・ヘルプ・トピックの「Default Alert Button Property」には、このプロパティがオプションである旨が記載されていますが、実際には必須です。

環境変数の誤植

FORMS90_DEFAULTFONT のページでは、FORMS90_DEFAULTFONT が FORMS60_DEFAULTFONT と誤植されています。

Java インポート・ヘルプ内のパスの誤植

オンライン・ヘルプ・トピック「Java Importer」（「C.3 Installation Requirements」の項）には、無効なパスが記載されています。

ORACLE_HOME/TOOLS/COMMON60/JAVA/importer.jar
正しいパスは次のとおりです。

ORACLE_HOME/JLIB/importer.jar.

JDAPI ドキュメントの中に不正な Java コードが含まれている

オンライン・ヘルプ・トピックの「Starting A Jdapi Session」には、次のような Java コードが含まれています。

```
import oracle.forms.jdapi.*;

// Jdapi.startup() does not need to be called because we are starting
// the Jdapi in default mode.
//
public class JdapiSessionExample
{
    public static void main(String[] args)
    {
        // suppress errors from missing subclassed modules
        Jdapi.setFailSubclassLoad(true);
        // suppress errors from missing PLLs
        Jdapi.setFailLibraryLoad(true);
// This line will cause initialisation FormModule. fmb = new FormModule("myform.fmb");
        FormModule. fmb = new FormModule("myform.fmb");
        // program code goes here
        ...
        // finally, free API resources
        Jdapi.shutdown();
    }
}
```

ボールド体の行には、FormModule に続いてピリオドが付いています。その行ではピリオドが原因で Java がコンパイルされません。

JDAPI サブクラスのサンプルの中に不正なコードが含まれている

オンライン・ヘルプ・トピックの「Low-level Subclassing Using Parent Properties」には、次のようなコード行が含まれています。

```
blockA.setParentModuleStorage(JdapiTypes.PAMO_FILESYSTEM_CTID);
```

上のコード行は、コンパイル・エラーの原因になります。

```
cannot resolve symbol
symbol: variable PAMO_FILESYSTEM_CTID
blockA.setParentModuleStorage(JdapiTypes.PAMO_FILESYSTEM_CTID);
```

解決策は、このコード行をコメント・アウトすることです。そうすれば、サンプルがコンパイルされます。

JavaBean ソース・コードのサンプルの誤植

オンライン・ヘルプ・トピックの「Low-level Subclassing Using Parent Properties」には次のソース・コードが記載されていますが、このコード行はコンパイルされません。

```
XPos := CurrentValue;
    get_parameter_attr(BeaValListHdl, 'MouseY', ParamType, CurrentValue);
    YPos := CurrentValue;
    MsgBox('If you click at '||to_Char(XPos)|| '/' ||to_Char(YPos)||
    again I may drop these beans');
```

ボールド体の行の「MsgBox」を「message」で置き換えれば、コードがコンパイルされます。

DO_COMMIT 動作に関する記述が不明瞭

EXIT_FORM ビルトイン用のオンライン・ヘルプ・トピックでは、DO_COMMIT の状態が次のように解説されています。

```
"Forms validates the changes, performs a commit, and exits the current Form without prompting the operator."
```

Forms の実際の動作は、変更内容を検証してコミットを実行し、オペレータが変更内容をコミットした場合は入力を要求せずに現在のフォームから出るというものです。

デバッガでの変数値の変更に使用可能なウィンドウに関する説明が不完全

オンライン・ヘルプ・トピックの「Modifying a Variable Value」の手順 1 として、次のような内容が記載されています。

1. Display the appropriate debug window (Variables, Form Values or Global/System Variables).
しかし、正しくは次のような内容です。

1. Display the appropriate debug window (Variables, Form Values, Watch, PL/SQL Packages or Global/System Variables).

Oracle9iAS Forms Services 利用ガイド リリース 9.0.2

1. 第 5 章の手順 1 で、mod_osso.conf ファイルを次のように変更します。

```
ORACLE_HOME/forms90/server/forms90.conf file.
```

2. 手順 1 には、次の行を forms90.conf ファイルに追加する指示も記載されています。

```
<IfModule mod_osso.c>*  
<Location forms90/f90servlet>  
    require valid-user  
    authType Basic  
</Location>  
</IfModule>*
```

上述の行は、forms90.conf 内にすでに含まれてはいますが、コメント・アウトされてしまっています。そのコメントを解除してシングル・サインオン (SSO) を有効にしてください。

3. 上述のコードでは、現行のドキュメントには含まれていない新規の行がアスタリスク (*) で示されています。

「PL/SQL Converter」と「GUI バージョンの Migration Tool」の「Oracle9i Forms Migration Assistant」への改名

Forms ドキュメントに、「PL/SQL Converter」と「GUI バージョンの Migration Tool」が記載されている場合があります。現在これらの名前は、「Oracle9i Forms Migration Assistant」に変更されています。Oracle9i Forms MigrationAssistant のドキュメントは、OTN-Japan または OTN から入手できます。